

シリーズ「授業風景3」

～「人権学習」の実際～

2024・11・13 重枝 一郎

そして、また、ホワイトボードに書きながらの「語り」です。

「今、この時間でも、我慢ができない人がたぶんいると思う。真剣にすべきときに真剣にできない、我慢の足りない人が。人には、人として大切な体験をする年齢がありません。それを発達段階と言います」

0～3才 信頼 「生まれて3才までは、信頼。赤ちゃんは、ほったらかして生きていくことはできない。みんなもそうだし、先生もそうでした。誰かが抱っこしてくれたり、食べさせてくれたりして、今があるんです。そうしたスキンシップ体験から、人を『信頼』することができるようになる。だから、『信頼』はみんな手に入れている」

4才～小1 我慢 「4才から小学校1年生くらいは、人として何が大切かという、我慢ですよ。いませんか、小さい子に。ギャーギャーわがまを言う子。でも、そのときにきっちり、ダメなことはダメですよと教えないと、小さいからわからないんです。でも、我慢する体験をこのときにしていれば、今、我慢できるようになっている。今、我慢できない人は、我慢する体験が足りていないのです。中学生の今ならまだ、間に合う。今から意識して、我慢することをしてみて」

小2～小5 思いやり 「小2くらいから小5は、まわりにどんな人がいるか、どんな友だちがいるかがわかるようになります。相手の存在を意識できるようになるので

す。
小1くらいまでは、みんな自己チューで、まわりの存在や相手の立場というのが意識できない。だから我慢が大切。

小2からは、他者の存在感覚が少しずつ強くなるから、思いやりが大切。それぞれの発達段階で体験して、身に付けなければならないことがある、人として。人に思いやりをもって接するという体験を、小学校低学年でしておけば、絶対、優しい人になる」

「じゃあ、小6から今のみなさんくらいのとき。ここで絶対してほしいのは・・・」

小6～中1 感謝 「まわりの人に、感謝することを覚えなさい。人はひとりでは生きてはいないんだから。これまでは何でも、人にしてもらえばよかったかもしれない。でも、必ず感謝の気持ちを言葉で表し、態度で表す。これを徹底してするのが、今のみなさんのすること。『ありがとう』って必ず言いなさい。あいさつも大切。ありがとうを言う人は他者から好かれるので、共同体感覚をつくりやすい。相手も自分も幸せになる」

中2～ 感動 「そうしたら、本当に感動できる人間になれる。みんなで何かしたら、ものすごく心が熱くなる。たった1回の人生、感動の少ない人ほど不幸せな人はいないですよ。どれだけ感動できるか、素直に。先生には、本当の今の君たちのことはわかりません。でも、自分のことは、自分が一番わかっているでしょう。感動できる人になるために、何が足りないのか・・・」

生徒たちは素直な表情で、重枝先生の「語り」に集中しています。

「それでは、みなさんが大切だと言った『協力』『団結』が口だけかどうか、それぞれのクラスのリーダーに、今年度の学級目標を振り返ってもらいます」